

「金津村田製作所厚生棟建替計画」

Welfare Building Reconstruction Project for Kanazu Murata Manufacturing Co., Ltd.

従業員・地域住民の「よりどころ」となる厚生棟

環境配慮への取り組みを未来へつなぐ



■再エネ100%工場としてのシンボルの創出

既存食堂棟の老朽化に伴い、新たに従業員や地域住民の「よりどころ」となるような厚生棟の計画を行った。多様な過ごし方や働き方への適応を目指し、利用者が自らの居場所を選択できる空間構成を重視し、ワークスタイルに応じた執務場所を選べるオープンワークスペースや、多様な食事スタイルに対応可能な食堂を設け、従業員一人ひとりに寄り添うことでエンゲージメント向上を図った。金津村田製作所様の新たな顔を印象付けるファサードとするため、水平基調の伝統的な厚生棟ファサードをベースに、ソーラーパネルをルーバー状に設置することで、水平線を強調した躍動感あるファサードとし、居場所空間・地域性・技術力の更なる進化を表現した。ソーラーパネルのルーバーは太陽光発電面積の拡張と日射遮蔽効果による省エネを両立し、再エネ100%達成の一翼を担う計画としており、再エネ100%達成のシンボルとして環境配慮への取り組みを未来へつないでいくことを力強く表現している。

■ PROJECT DATA

所在地 福井県あわら市
主要用途 事務所・食堂
設計・監理 戸田建設株式会社一級建築士事務所

敷地面積 39,031.25㎡
建築面積 1,059.06㎡
延床面積 2,067.76㎡
階数 地上3階
構造 S造
竣工 2023年2月

■多雪地域における合理的な架構への取り組み

柱と梁によるシンプルな架構表現により建築計画の自由度を高めた構造計画とした。「変位依存型床制振システム」による14.4m×20.0mの無柱空間の実現、「4.4mの片持ち架構」によるコーナービューの確保といった構造技術における挑戦的な取り組みも合わせて実践している。さらに折板屋根と合成デッキスラブの採用による建物軽量化などの取り組みにより、多雪地域でありながら構造部材断面を小さく設計することが出来た。

■ PROJECT MEMBER

意匠 大原 ころこ
構造 得能 将紀